

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 38号 平成24年8月

発行元 福島市中町8番2号
財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

理事長就任にあたって

理事長 松浦幹夫

本年4月1日に財団法人福島県農業振興公社理事長に就任いたしました。皆様には、日頃より当公社の運営につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。



さて、昨年の3.11以来1年と4ヶ月が過ぎましたが、大震災そして原発事故の影響は未だ大きな陰を落とすまま、数多くの県民が県内、県外で避難生活を強いられており、依然として県民生活や県内産業に深刻な影響を与えております。

本県の農林水産業も、かつて経験したことのない大変厳しい状況にあります。特に、原発事故の影響は甚大で、本県農産物は出荷制限や作付け制限に加え、風評被害の影響で、生産・流通・販売の全ての面で深刻な被害を受けており、その安全性の確保と消費者の信頼回復が喫緊の課題となっております。

このような中、国においては昨年10月に「食と農林漁業の再生行動計画」を策定し、持続可能な力強い農業の実現のため、農地利用集積の推進と新規就農の増大を掲げ、「農地集積協力金」や「青年就農給付金」の制度を創設し、当公社が取り組んできた事業を積極的に推進しようとしております。

このような情勢のもと当公社は、県農政における構造政策の推進機関として、県及び市町村のご支援、ご協力のもとに関係団体と連携を図り、農地保有合理化事業による経営規模の拡大や効率的な土地利用を図るための農地利用の集積等に関す

る事業及び青年農業者等の育成・確保や就農の促進を図るための各種事業を推進し、併せて鉱害による浅所陥没の復旧を行うなど県行政の補完的な公益事業に積極的に取り組んでおります。

また、冒頭でも触れましたが、本県農林水産業の復興・再生を図る上で、農産物の安全性の確保と消費者の信頼回復が必須条件となっております。

このため、県は農産物の安全・安心の確保と消費者へ安全・安心を伝えるための取り組みを行っています。

米や果実・野菜等の検査機器の県内各産地への導入や米の全袋調査に向けた体制を整備するとともに、検査結果や産地の取り組みなどの情報を、生産者はもとより消費者や流通業者に提供する仕組み作りを行っています。

そして、この取り組みを推進するため、県や関係機関・団体等で構成する「ふくしまの恵み安全対策協議会」が去る5月2日に設立され、当公社がその事務局を担うことになりました。

県をはじめ市町村や関係機関・団体のご支援、ご協力の下、本県農林水産業の復興・再生に向け全力で取り組んで参りたいと考えております。

一方、公社の経営におきましては、平成24年3月に策定した第四次経営合理化計画に基づき、役職員が一丸となった事業の積極的な推進と効率的な業務の執行に心がけ、皆様の期待に応えられる組織として健全経営に努めて参る所存でありますので、益々のご支援、ご協力をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

農地調整課

平成24年度

合理化事業推進会議が開催されました。

平成24年7月9日(月)、当公社の主催により、郡山市の福島県農業総合センター「多目的ホール」において、県、市町村、農業委員会、農地利用集積円滑化団体など約100名の関係者が一同に介して、「平成24年度農地保有合理化事業推進会議」を、2年ぶりに開催いたしました。

この会議は、農地保有合理化事業の円滑な推進と、農地保有合理化事業と農地利用集積円滑化事業の連携により県内の農地利用集積の促進を図ることを目的としております。



会議に先立ち公社松浦理事長より、公社が原子力損害賠償一括請求を東京電力に行い(430件420ha約5,600万円)、6月に賃貸借人へ支払ったこと、及び本県農産物の信頼回復を目的として放射物質の米の全袋検査等安全管理システム構築のため設立された「ふくしま恵み安全対策協議会」の事務局を担っていることの紹介と合わせて挨拶を行い、引き続き県農業担い手課の安田副課長より「農地保有合理化事業は土地利用型農業の経営規模拡大、農地の効率的活用を図るうえで効果的な事業であり、これまで以上に合理化事業を活用する必要がある。」との挨拶をいただき、会議に入りました。

会議の内容は、

- (1) 農地保有合理化事業の推進について
- (2) 合理化事業の内容と留意点等について
- (3) 合理化事業による規模拡大加算等について

- (4) 農地流動化に関する新規事業について
 - (5) 平成24年度業務委託実施方針について
- 県農業担い手課・竹内主任主査と公社担当者より説明をいたしました。



参加者の皆様方には、合理化事業の概要と実施時の留意点等、県公社だから出来る農用地の利用調整の手法、合理化事業と円滑化事業との違いなどの説明を受け、農地保有合理化事業への理解を深めていただきました。

今月のコラム

「WBC不参加に思う」

つい先日、日本プロ野球選手会が来年3月に開催予定の第3回ワールド・ベースボール・クラシックに参加しない方針を発表しました。

不参加の理由は、MLB側と参加国との利益の分配、試合日程、組み合わせについて不可解な点が多いとのこと。

日本は過去2回の大会で優勝し、日本中に感動と勇気を与えてくれました。

最近の日本プロ野球は、TVの地上波放送も少なくなり人気も低迷していることから、3連覇を目指して大会に参加することで、日本プロ野球の強さを示していただき、東日本大震災などで元気のない日本に明るい話題を提供していただきたい。

9月30日の回答期限までに、日本プロ野球機構と選手会双方が十分に話し合いを行なって、よい結論を出して欲しいものです。 K.F

育成センター

福島県農業青年クラブ連絡協議会 (略称:県連)をご紹介します！

当社の青年農業者等育成センターが支援している福島県農業青年クラブ連絡協議会(事務局:県農業担い手課)の組織活動等について紹介します。

1 県連の歴史

戦後間もない昭和23年、安達町渋川地区に県内初の「渋川4Hクラブ」が誕生し、以後各地域にクラブが結成されました。26年に県連組織として「福島県4Hクラブ連盟」が発足し、その後現在の県連名に改称され、今日に至っています。なお、現在は7クラブ(浜通り1・中通り4・会津2)の100名で活動しています。

2 4Hクラブの精神

Head(頭脳)、Heart(心)、Hands(技能)、Health(健康)の4Hクラブの精神は、今も変わることなく受け継がれています。

3 県連の主な活動

ふくしま農業PR活動



第21回ふくしま農見本市



わらしべ長者的研修



フットサル大会・表彰式

昨年 の 原 発 事 故 に 伴 う 農 産 物 の 風 評 被 害 を 払 拭 する ため、首 都 圏 (メ ル パ ル ク 東 京、ふ く し ま 市 場 [イ ト ョ ー カ ド ー 葛 西 店 内]、横 浜 公 園 等) で 本 県 農 産 物 の 安 全 性 を P R する と と も に、消 費 者 の 「ふ く し ま 農 業」に 対 する 意 識 を 対 面 方 式 に よ り ア ン ケ ー ト 調 査 し ま し た。(H23.6.26)

ふくしま農見本市

ク ラ ブ 員 が 生 産 し た 農 産 物 を 展 示 販 売 する と と も に、各 ク ラ ブ の 活 動 状 況 を P R し ま し た。な お、本 行 事 は、F C T 「2 4 時 間 テ レ ビ」に 協 賛 し て い ま す。(H23.8.21)

福島県農村青年会議・わらしべ長者的研修

ク ラ ブ 員 が 日 常 の 農 業 経 営 の 中 で 設 定 し た 課 題 の 解 決 に 向 け た プ ロ ジ ェ ク ト 発 表 や 農 業 へ の 熱 い 想 い を ま と め た 意 見 発 表 を 行 い、発 表 後 に は 講 演 や 意 見 交 換、並 び に 講 師 と の 交 流 会 を 開 催 し ま し た。(H24.2.10) な お、前 年 度 に お け る 各 発 表 の 最 優 秀 者 を 東 北 大 会 (H23.11.11~12) 及 び 全 国 大 会 (H24.2.28~3.19) に 派 遣 し ま し た。

ま た、” 3 6 5 分 の 1 日 ぐ ら い、み ん な で 集 ま っ て 遊 ぼう ぜ！” を テ ー マ に、フ ッ ト サ ル 大 会 を 開 催 し、交 流 と 親 睦 を 図 り ま し た。(H24.7.13)

総務課

永年勤続職員表彰

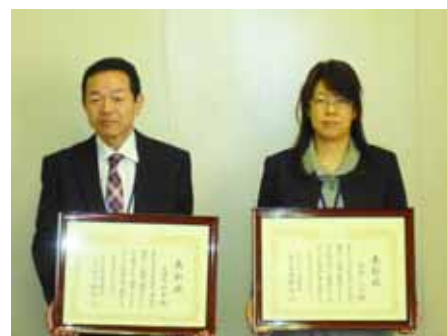
去る5月31日に開催された理事会の冒頭、永年勤続職員(30年勤続)が表彰されました。

青年農業者等育成センター

主任主査 久保木和彦(写真左)

総務課

主任主査 高橋しげ子(写真右)



「絆を深めて！」

会 長 手代木 秀一

今年4月より福島県農業青年クラブ連絡協議会長になりました手代木秀一です。昨年の大震災から1年が過ぎ、私たち青年クラブも福島県も多くの方々から熱い支援と温かい言葉を頂き励みになりました。この場をお借りして深謝申し上げます。

平成24年度も恒例イベントとして、プロジェクト発表、意見発表、わらしべ長者の研修会、ふくしま農業PR活動、ふくしま農見本市は継続して開催する予定です。

また、昨年の大震災後から県連活動の見直しを行い、新しいイベントや直売活動を企画・挑戦することで、県連に新しい風と活気を生み出すべく活動しています。昨年の6月には原発事故による農産物への風評被害を打破するため、関東方面へPR活動に行き、同時にアンケート調査と直販を行いました。この活動は、本県農業の今後について考える契機となったと感じています。今年の3月にFCT主催で行われた「ふくしま再興祭り」では、大鍋イベントの食材提供や運営に協力しました。6月には、クラブ員の情報交換と交流を目的として、「みんなで集まって遊ぼうぜ！」という発想で、農業に関わる人達を対象に、磐梯熱海スポーツパーク体育館と清陵山倶楽部で「フットサル・スポーツ大会」を行いました。金曜日の開催ということもあり農業者以外の参加は難しかったようです。しかし、県連以外からの参加もあり、今まで深く関われなかった人達とも交流を深める

ことができました。



トルコキキョウ栽培ハウスにて

現在、県連は7クラブ、約70人の構成ですが、数年前までは10クラブ以上で人数も200人を超える大きな組織でした。新規就農者の減少が止まらないことや、助成金の減少も今後の私達の活動に少なからぬ影響を与えていくはずですが、

併せて震災等の影響もあり、あまり明るい未来像が描けない中ですが、この状況を少しずつでも良い方向に変えていこうと人が集まり、意見を出し合っ、これからの「ふくしま」と自分達の未来のために前に進んで行きたいと思っています。

農業者に一番必要なことは、手本になる偉大な先生や上から目線の政治家の意見でもなく、身近にいて想いを同じくする友であること、県連の活動を通して感じています。活動を共にする仲間達は、住んでいる場所、個人の生い立ち、栽培している作物など、何もかも違ってきます。農業という一つの職業でも、個々の想いはバラバラで、お互いにぶつかり合うこともあるかと思えます。一人一人が想いを共有し、絆が深まっていける場所を作っていけたらいいなと思っています。

編集後記 暑っ—い夏の寝不足を誘うロンドン五輪も終了しました。東京五輪依頼の最多メダルと相変わらずマスコミは大騒ぎですが、先の震災を経て、選手も応援する国民の皆さんも以前とは全く違うと感じるのは私だけでしょうか？勝っても負けても真摯な選手の姿に、深い感動を受け、励まされる毎日でした。心からありがとうを送りますJK

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F
財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>